第１回　双葉町復興まちづくり委員会　議事録

■日　時　：　平成２４年　７月１９日（木）　午後１時３０分～午後３時４０分
■場　所　：　双葉町役場埼玉支所　３階ＬＬ教室
■出席者　：　双葉町復興まちづくり委員会委員
事務局（双葉町企画課、（株）エコエナジーラボ）
（参照：第１回双葉町復興まちづくり委員会座席表）

１．開　会　（略）

２．委嘱状交付　（略）

３．町長あいさつ

第１回双葉町復興まちづくり委員会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、大変お忙しい中、第１回目の双葉町復興まちづくり委員会にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

只今、45 名の皆さまに復興まちづくり委員の委嘱状を交付いたしました。今回の復興まちづくり委員会につきましては、町民の皆さまの幅広いご意見をいただくため、町内関係機関や、学識経験の先生方、町職員のほか、若い世代の皆さまにもご参加をいただきました。

去る、昨年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、双葉町に甚大な被害をもたらしました。加えて、その後に発生した福島第一原子力発電所事故により、双葉町全域が警戒区域となり、事故から１年４か月が経過した今もなお、厳しい避難生活を強いられており、区域見直し、損害賠償、除染、健康問題など大きな課題が山積しておりますが、国や東京電力に対しては、事故の原因者としてこれらの課題解決に向けて責任ある対応や施策の実施を強く求めているところです。

とりわけ、双葉町への帰還の目途が立っていない中、原子力発電所事故により失われた双葉町のコミュニティの再生は、町民の皆さまの今後の生活に関わる極めて重要な課題となっています。

そこで、双葉町では、国の東日本大震災復興交付金を活用して、平成 24 年度内を目標に双葉町復興まちづくり計画を策定することといたしました。

まず、双葉町の復興に向けたプロセスとして、現在の町民の皆さまの生活がステップ１であるとするならば、ステップ２は「仮の町」と考えています。そして、ステップ３は、やがて双葉町に帰還することを目指したいと思います。特に、今後の双葉町の復興に向けた「仮の町」のあり方については、町民皆さまのご意見を十分にお聞きしながら検討していきたいと考えています。

復興まちづくり計画の策定にあたり、町民の皆さまの復興に向けたご意見を集約するため、避難地域での復興会議やインターネット会議、紙面アンケートなどを行う予定としています。そして、ここで寄せられたご意見などを踏まえ、復興まちづくり委員会での活発なご議論をお願いいたします。

これまで日本が経験したことのない非常に厳しい事態にありますが、町民の皆さま一致協力のもと、町の復興にあたっていきたいと考えています。我々の地域は原子力発電所と共生してまい

りましたが、今はそういう状況ではないということは皆さまご存じだと思います。従いまして、この復興計画というものは、町の将来、とりわけ新しい町を担う若い人たちにとっては大変重要な位置付けになります。できうれば、この成果が高く評価されそして、よく言えば世界中から注目されるような復興を遂げたいと思っています。そのために、「町を見学に来たい」という町ができれば「日本はしっかりと震災地域の復興を果たした」というシグナルになると確信しています。前例のない事故であります。従いまして、前例のないまちづくりがあってもいいのではないかと考えています。

委員皆さまのご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げまして、第1回目の復興まちづくり委員会にあたってのご挨拶といたします。

どうぞよろしくお願いいたします。

4．事務局紹介　（略）

5．双葉町復興まちづくり委員会設置要綱について

【説明者：事務局　平岩】（略）　　（資料2：双葉町復興まちづくり委員会設置要綱）

6．委員長並びに副委員長の選任について

【事務局　駒田義誌】

只今ご説明いたしました双葉町復興まちづくり委員会設置要綱第4条第1項におきまして、「委員会に委員長1人及び副委員長2人を置き、委員の互選によりこれを定める。」こととされてございます。今回初めて顔を合わせる方も多くいらっしゃると思いますので、事務局から推薦させていただきたいと思いますがよろしゅうございますでしょうか。

［異議なしと呼ぶ委員あり］

【菅野 博紀 委員】

双葉町の人が多いわけだから、双葉町以外の人を選ぶというデキレースはやらないと議会に説明してるんだからね。これだとデキレースになってしまう。お金をかけてやっていることなんだからちゃんとやりなさいよ。事務局案という話はないだろう。

【事務局　駒田 義誌】

それでは、今ご意見がございましたけれども、どなたかご適任の方はいらっしゃいますか。

［一任と呼ぶ委員あり］

【事務局　駒田 義誌】

それでは事務局に一任させていただいてよろしゅうございますか。

［異議なしと呼ぶ委員あり］

【事務局　駒田 義誌】

委員長につきましては、平成16年新潟県中越地震の際に旧山古志村の復興に携われるなど、長年に渡りまして、地域のまちおこし・まちづくりの分野で深い知見と豊富な経験を有する芝浦工業大学名誉教授・公益社団法人日本建築士会連合会会長「三井所清典委員」にお願いすることとし、副委員長には、福島大学名誉教授「鈴木浩委員」及び双葉町教育委員会委員長「岡村隆夫委

員」にお願いしたいと思います。ご異議ありませんでしょうか。

［異議なしと呼ぶ委員あり］

【事務局　駒田 義誌】

ありがとうございます。それでは、以降の進行につきましては、三井所委員にお願いしたいと思います。三井所委員長どうぞよろしくお願いいたします。

【三井所 清典 委員長】

ただいま委員長に選任されました三井所清典です。以降の進行につきまして、皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。町長のあいさつにありました「前例のない事故、前例のないまちづくり」の言葉が強く残っております。旧山古志村等のまちづくりなど前例のないものをやってきた。その中で頑張っていきたい。委員のみなさんのご協力がなければ進んでいきませんので、よろしくお願いします。

７．議　事

（１）「復興への道（案）」に関するパブリックコメント集計結果について

【説明者：事務局　平岩】　(略)

（資料：「復興への道（案）」に関するパブリックコメント（アンケート方式）集計結果）

【三井所 清典 委員長】

只今、事務局よりパブリックコメントの集計結果についてご説明ありました。この件につきまして、何かご質問ございましたらおっしゃってください。

【泉田 邦彦 委員】

今回のアンケートでは、小学生以下の回答の機会がなかった。中学生、高校生を見ても回答率が少ないと思うんですが、子どものことを重視しているのか、関係者の方に子どもたちがどう考えているのか、教えてほしいと思います。

【事務局　駒田 義誌】

子どもや若者については幅広く意見を聞く必要があると考えております。これから説明があると思いますが、計画を作っていく過程で、若い人たちの意見を吸い上げていくような仕組みを作っていきたいと思っております。

【竹原 天 委員】

アンケートをお金をかけてまとめたみたいだけど、この 17.2%という回収率では参考にならないと思うんですよね。50%以上の意見が必要であると思うんです。

【三井所 清典 委員長】

これから委員会として多くの町民の意見を吸い上げていくのが役割であると思うんです。この結果はあくまでも参考であると思うんです。

【田中 清一郎 委員】

それではこれは参考か。

【三井所 清典 委員長】

そうです。

【田中 清一郎 委員】

これがベースに進んでいくと感じてしまう。17.2%でこのような立派なものを作るのはどうかなあと。この委員会でこれからデータを作っていくと思うが、このパンフレットが先にあると頭に植え付けられると思ってしまう。もう少し慎重にやってほしい。広く町民の意見を聞いて、調査結果を公表してほしいと思います。

【事務局　駒田 義誌】

ご指摘の通り 17.2%だとごく一部の意見だと思いますので、のちほどご説明させていただきますが。

【田中 清一郎 委員】

これがベースになってまちづくりの重要な資料となるのに、17.2%しかないものをこれだけのお金を使ってみんなに出してしまうのは感覚的にずれているのではないかと言っているの。

【三井所 清典 委員長】

このアンケートの回収率が 2 割弱しかない中で、パンフレットを作ったり、町民に配ったりするお金のかけ方への意見だと思うんです。回収しにくい状況の中でのアンケートであったと思います。これも 1 つの意見として、これをベースにするのではなく、これを見ながら違う意見を出してもらうということを委員会でやっていければいいと思っているんです。

【菅野 博紀 委員】

これを最初に見せてしまったら頭に植え付けることになるでしょ。そういうことから始まることがおかしいでしょ。今、泉田委員が言った通りに子どもにどういう風に聞いた方がいいのかそういうものを最初からアンケートを作んなきゃいけないでしょ。資料 3 を見ると、スケジュールが決められている。町長のあいさつにもあった今年度いっぱいでやるとあった。復興まちづくり、仮の町に関してはかなり慎重にやらなくちゃいけない。その中でタイムリミットを決めたような計画に沿って行い承認すればいいのものではない。アンケートをちゃんとやった方がいいという意見がある。なんでそれを植え付けるのか。17.2%がどれくらいのものなのか。総合して受け止めてもらわないと委員会の意味がなくなってしまう。時間的制約、今からの復興まちづくりができたとして、住むのはさっき言った子どもたち、小中学生、高校生、大学生が戻ってこなければ町の運営なんて何もできないんです。他人事なんですよ。自分たちが直面してやっていないとダメなんですよ。だから 17.2%のものじゃなくてアンケートの中身をしっかりと作って委員会としてやるのが普通なんじゃないんですかっていう話なんですよ。

【三井所 清典 委員長】

菅野委員が言いたいことは十分理解していると思います。他に同じテーマで別の意見はありますか。

【木幡 敏郎 委員】

素朴な疑問ですが、全国各地で避難して 1 年 4 か月経とうとしているのに今のような状況。改めて町はどうするのか避難者は待っていると思いますが、仮の町についてもアンケートで 90 件さまざまな理由でできないとされているが、さまざまな理由の中身を教えていただきたい。ほかには、仮の町を創ってほしいという声はたくさんありますが、悩んでいる方や、すでに各地で一生懸命暮されている方で仮の町に行きたくても行けない人もでてくると思います。仮の町は一つの目標ではあるが、その人たちはどのように扱っていくのかということを考えていかなければなら

ないと思います。

【三井所 清典 委員長】

そのような今後の課題をもっと出してほしい。菅野委員のテーマで別の意見はありませんか。

【岡村 隆夫 副委員長】

別の意見というわけではありませんが、このデータを参考に委員会を開くのは難しいと思います。これは昨年の 12 月のデータと今のデータはだいぶ違ってくると思います。この数か月の間で、住居や生活に関して安定するような時期だったと思うんです。子どもたちも転校してから 1 年ほどたち少しは落ち着いてきた時期でもあります。つまり今この段階でどのようになっているのか知ることが必要なのではないかと思いますので、アンケート結果にお金をかけずに短い期間でもかまいませんので、もう一度アンケートを取って状況を知ることが重要なんじゃないかと思います。

【三井所 清典 委員長】

後の方で出てくると思いますが、どのように住民から幅広く意見を集めるか事務局から説明がでると思います。そこで集められた意見をこの委員会でどのようにまとめていくかが大事になってくると思います。丁寧に全住民から意見を聞くつもりで「7000 人の復興会議」というキャッチフレーズにしている。外部の人間としてその取組は他の町村と比較しても丁寧な姿勢だと思っていまして、私はこの取組を聞いてこの委員会への参加を決めました。いろんな意見を聞いて考えて、どのような落ち着きを示したら良いのかみんなの知恵を町民に返していきたいと思います。意見を集めることは急いでしなくてはいけないことですが、そんなに簡単にできないことだとみなさん認識されていると思います。大変な作業ではあるが、大変だからこそ、少しずつ進めていかなければならないと思うんですよ。

【菅野 博紀 委員】

委員長、大変失礼ですが、この町の人は大津波、放射能から一本しかないような道を逃げてきている人たちなんです。体育館や車の中で一週間、10 日生活してきたんです。双葉町の町民は。経験から言わせてもらえばそんな悠長な話ではない、この一年数か月でみんな精神がおかしくなっているんです。早くしなければならないんです。でも完璧なものはできないです。しかし時間のない中 100%のものを作らないといけないんです。さっき泉田君が本当にいいことを言ってくれたのは、大人だけの話ではないんです。先ほどのアンケートは子どもはやってないんですよ。中高生に対しても物心の発達具合に考慮したアンケートができていない。そこからしっかりしていかないと 10 代 20 代の若者は住んでくれないと思うんですよ。私も商工会で街づくりをしていたが、最新式のコンクリートの街ではなく、レトロなしっかりした方向性の方があってるんじゃないかとかそういうアンケートも取っていかないといけないんじゃないか。だからまとめるんじゃなしに、大枠にでてきた意見を幅広く集めるのが大事でしょって。それをやってないでしょって。

【三井所 清典 委員長】

そのとおりです。これからやっていきましょう。

【菅野 博紀 委員】

やる気があるのかって話です。そこを聞いているのに周りにふっているだけでしょう。

【三井所 清典 委員長】

菅野さんと事務局の個人的な話で終わらせたくなく、他の委員の反応を知りたかったんです。

【武内 裕美 委員】

12 月に実施したアンケートの取り方なんですが、5 枚の質問用紙を世帯ごとに送付してしまった。その結果、世帯代表のみが回答したと思われる傾向となったと思います。アンケートの取り方にも問題があり反省すべきだと思います。その結果、回収率は 17%でしたが、世帯比率は違ってくると考えます。このアンケートは 12 月時点の町民の意見を提示したものだが、今後は菅野委員のおっしゃるとおり若い人の声を全国から吸い上げていく予定があるんじゃないかと思いますので、この後の議題で今後どうしていくか議論していただければと思いますのでよろしくお願いします。

【三井所 清典 委員長】

アンケートに関しての質問から入りましたが、内容よりアンケートの取り方が問題となりました。今後は調査、意見の収集の進め方を決めていけばいいと思います。

（2） 復興まちづくり計画について

【説明者 事務局 （株）エコエナジーラボ代表取締役 善養寺】

（資料 3：双葉町町民参加の復興まちづくり計画策定『7000 人の復興会議』）

被災地域で有識者を多く含んだ復興会議を行い、復興計画を立てています。しかしそんな中で作られた計画は、住民の意見があまり反映されていません。専門家による都市計画として、先ずは大雑把なゾーニングのような作り方になっていて、本当の 1 人 1 人の生活再建に適用していないのが現実であり、予算要求したところで、実際には生活が成り立たないような状況で、先に進んでいないのが現状であります。

双葉町の復興会議は、他で被害があったところとは違い、住まう土地があって、それをどうするかというのとは違うので、今までの 1 年間はこういう会議は行われてこなかったです。

これが初めての双葉町の復興会議です。その中で、新しい町を作るにあたっても専門的、学術的な発想で町を作るのではなく、被災者全員、この町に住んでいた人たちが、新しい町への暮らし方や、行かなかったとしても、自分がそこを故郷と感じるように心の町としても作る必要があるだろうと思います。

先に取ったアンケートの結果の反省として、回収率が低い、若い人たちの意見も少ない。

若い人たちから聞くと、家長が書いて出してしまったので、中学生、高校生が書く機会を与えられなかったという話をちらほら聞きます。それから考えて、これはお父さん、おじいちゃん、息子さん、孫さん、それぞれ 1 人 1 人が未来へ向けて、自分が暮らしていく担い手となる条件は違うと思われるので、1 人 1 人の意見を本当に吸い上げる新たな方法をもう 1 度考えなければならないということがアンケートを取ってわかったことだと思います。

【2 ページの説明】

2 ページに町の絵がありますが、双葉町には土地も何もありません。新しい町を作るとき、「仮の町」にしても「時限的」にするのか、「永久的」にするのかも、それは皆さん方が生き方を考える上で決まっていくことだと思います。町というのは、土地があって、道路があって、

インフラがあって、役場があれば人が住める町ではありません。住宅だけを提供されても決して住める町ではありません。町というのは、生活必需品から自分たちが暮らすにあたり、仕事というもの等全てがそこに整って機能するのが町ということである。更地を与えられて「さあ、どうぞ。はじめてください。」と言われてもすぐには町にならない。

そこで町を作るのにあたって、第１に町民１人１人の意見をすべて取っていく方法で、これから求める自分の町の、自分が担い手となるものを出していただく。

参加型という、アンケート調査をし、絵を見せ「これいいですか。」というスタイルがあるが、今回はそういうことではなく、町民の自分たちの需要と供給を踏まえて、それを実現するためにはどうしたらいいかを考えていく“まちづくり”をやろうとしているのが、「7000 人の復興会議」です。ですからこの 2 ページに描いてある絵は例えです。町民１人１人が求めるもの、提供できるものをうまくマッチングさせていきたいと思っています。今、双葉町の失業率は 50%です。よく言われるのが、失業対策に新しい自然エネルギーの事業を始めたらいいのではないかなど、今までやってきたことでないことをやるということ。それは大変なことですし、外部から来た経済、経営者たちが今いる双葉町の町民を全て雇用してくれるのか、それも希望する報酬で雇用してくれるのか。それは、はっきり言って事業者サイドのお任せです。であれば、町の中で、自分たちで担えるもの、自分で仕事として今までやってきたもの、新たにやりたいこと、それをまずそこで組み立てて事業化していって、それで足りないものを外部から取り入れる。逆に、外部からのを求められていくことが一番大事なことだと考え、この 7000 人の復興会議のまちづくりの中では、ハードを作るだけじゃなくて、ソフトも解決していくのがこの計画です。

【3 ページの説明】

会議の参加を「アンケート調査を作ってやったらどうか」という意見がありましたが、アンケート調査では内容が決めうちとなります。これについて、「どう思うのか。」「イエスか。ノーか。」だと、一方通行に答えるだけになります。そこで、会議を開催してほしいということで、各地で主要な拠点で会議の開催を行うとチラシが一度配られたと思いますが、1 つの手法としては、各地で会議を開催し、そこで行われた意見を踏まえて、どうあるべきか、ということの中身を整理します。そして、その情報をインターネットで瞬時に全国各地に散らばっています会議に参加できない人たちにも情報を提供できるよう伝えます。そして、インターネットからも自分の意見を述べることができる。特に若者は自分たちが親御さんの都合で点在していて、同級生同士でそばにいれない人たちもいます。そういう若者たちは、なかなかこの会議に参加されることは難しいかもしれない。若者の会議も検討していますが、インターネットを使う若者たちが増えていますので、若い人たちのツールで参加できるような形を用意しまして、そこでそれぞれの意見を吸い上げていきます。そして、会議にも参加できない、インターネットでも参加できない人たちに対しては紙面での投稿を考え、あとは、「ここへ来てください」という人たちがいればそこへ行って話を伺うという形を取ろうと思います。

【4 ページの説明】

インターネットの考え方でありますが、参加する人たちは町民の方々を中心に、専門家と一般になっていますが、一般というのは、基本的にはまちづくりの話が町民の中でしっかりでき

たときに、I ターンしたい人や、前に双葉町に住んでいた人たちが U ターンで帰ってくる人たちにも参加できるツールとして用意しておりますが、最初は町民が中心に参加する形で話し合って、仕事、暮らし、自分たちがほしいものや、自分たちが担うべきものをそれぞれを出し合ったり SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）があるように小さなグループを作ったり、若者たちのグループを作って自分たちの話し合いができるような場を用意します。

これは専用ですので双葉町民だけが入れるサイトとして今用意しています。

【5 ページの説明】

今、避難されている方は北海道から沖縄まで大変全国に分散しております。何百人単位でいられる主要なところには、地域事務局という形で人を配置します。町民の方々に担っていただいて地域事務局を作り、その中でそれぞれが地域で小さな会議をし、色々な意見を吸い上げることをサポートします。自分たちが担い手として、何らかを営んでいくことを具体的に考え始めるとの問題点がでてくると思います。それをどうやって経営していけばいいのか。資金繰りなど、どう財源を確保するのか。いろんな問題があると思いますが、そういう意見を吸い上げて、解決できる方法を民民で考えたり、行政が考えたり、専門家も考えるといった、様々な形で助け合ってく土台づくりをしたいと思っています。

そこで、支部のサポートする人というのを適任していく。若者が担い手グループを作ったならば、そこも事務局の１つとしていく。そういうものを作っていこうと思います。それらの意見を集約して、我々サポート本部が取りまとめて、復興まちづくり委員会に提出したいと思っています。

【6 ページ説明】

復興まちづくり委員会と 7000 人の復興会議の位置付けですが、右下に復興まちづくり委員会がありますが、これが今日の委員会です。町長の下にありますが、復興まちづくり委員会でお願いしたいことは、これから始まる町民が主体となって、新しいまちづくりにどうやって取り組んでいくのかという提案やアイディア、自分たちがそれを担いますという人たちの意見を吸い上げていく 7000 人の復興会議の説明をしましたが、各地で行われる復興会議、地域事務局といっしょに行う小さな会議、インターネット会議、これについて町民の皆さん積極的に参加するように後押しをしていただきたい。その上で、皆さんからいろんな意見が出てきたものを、こういう理想的な町を自分たちの力で営みたい、この部分は足りないので取り込んでくださいとか、予算要求であるとか、そういうものを整理して、それを復興まちづくり委員会に要望として集約します。集約したものをこの委員会で優先順位であるとか、大事なことは１人１人の営み全てを実現できるように考えるべきだと思いますが、それを町長にあげまして、町議会と協議してもらい、実現するための政治的アクションをしてもらうというのが、この委員会の大事な役割だと思います。ですので、まちづくり計画は本年度末という予算要求上の形は決まっています。本年度中に計画案をまとめたいと思っていますが、最終的には、土木工事が入って、建設工事が入って、みんなの営みができるように、引越しをするまで数年間はかかってしまいます。どんなに短縮しても来年の春に引越しを行うのは無理ですので、3 月 31 日までにまとめるのはアイディアのみであると思います。数年間の間に生活するための準備として、情報交換をしたり、新しいものを取り込んだりする期間にあててもらえたらいいと思います。

【7 ページの説明】

計画会議を各地域の主要な場所で行うのは、この地域の人たちに限定しているわけでなく、全国から何回参加しても構わないと思いますし、その中から色んなアイディアが出てくると思います。それをインターネット上に投稿するときに「仕事」「教育」「暮らし」「福祉」「文化」「娯楽」等そういうものに分けます。自分がここを担って提供することができるのであれば、1 人ワークグループでも構わないし、自分が自立して担い手となるために何が足りなくて何が実現できるのかということを洗いだしてもらいながら、それを会議する間の中で、地域で協議してもらうなり、インターネット上で距離を超えて同じ志があるもの同士でコミュニケーションをとってもらうなりしながら、問題解決する方法を出してもらう。双葉町の未来の姿としてまちづくりの案を出してもらう。そして、それが計画策定という形でこの委員会にかけてもらう、という風に考えている。

【8 ページの説明】

町民の 7000 人の復興会議と復興まちづくり委員会との間は密接な関係として、お互いにより良いまちづくりするためのものと考えています。先ず、8 月 19 日に第 1 回の復興会議を福島市で予定しています。これはキックオフ会議として開催しまして、委員の方々にもできるだけ参加して頂いて、意見が出される中で、どういう状況であるのかを把握してもらいながら、改善策をこの委員会で出してもらって、よりこうした方が町民の方から意見が出しやすいのではないかなど改善案をこの委員会で諮問しまして、それを持って改善策を考えながら、9 月の東京、新潟を行いまして、1 回中間報告した後に 10 月からいわき、郡山、つくばで会議を開催して、できるだけ多くの、できれば 100%の、小学生からも意見を求める形で、自分たちのまちづくりの意見の集約をしていきたいと思います。

【９ページの説明】

スケジュールの問題も言われておりましたが、7000 人の復興会議として、まちづくりはまちを作るだけでなく、そこのまちの中に住まない人も復興を考えるための場として、これからの生き方を考えながらやってほしい。会議を行い、中間取りまとめをし、本年度末には、計画案としてそれを集約したものになる。これは、まちとしてこういう所に道路、住宅というところまでいかないかもしれないが、どれだけやらなきゃいけないことがあるが、何を考えないといけないか、具体的にあげていき、一番適合した土地を選定することが重要になるかと思っています。ですので、土地の選定に関しては、ホームページでも広く公で情報を入れてもらえるようにしておく。それは誰でも入れるようになっています。その上で土地をどこにするのか、町民の皆さんと一緒に決めていくという形をとります。ですので、町民の意見を踏まえて、復興まちづくり委員会で話し合うという形になると思います。

それらを踏まえて、数年間の間に実際実施されていく中で、それぞれ担い手が何らかの形で新しい双葉町に自分の生きるところを作っていくという準備期間と、ハードの設計や土木工事を並行してやっていくことで、まち開きの次の日から働けるまちにするべく始めていきたいと思います。

委員の先生方、よろしくお願いしたいと思います。

【事務局　善養寺 幸子】

こういった形で、まさに菅野委員がおっしゃら…。

【菅野 博紀 委員】

全然違うよ。日本語わかる。

【事務局　善養寺 幸子】

どうもすいません。私はてっきり全員の意見を吸い上げられる場をつくることが大事だと言っておられたように捉えたんですが。一応このように進めていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

（3）　意見交換

【三井所 清典 委員長】

全国各地に避難している人からどのように意見を聞いていくのかということから、仮の町へのスケジュール(案)までが提示されましたが、これについて皆様のご意見をお願いします。

【藤田 博司 委員】

双葉町に 100 件くらい家を作るときもあったが、町を作るときは整地一つにとっても埋め立て地は売れなかったりと暗渠が何本もあったりと大きな問題があった。つまり大きな町を作るときは我々にはよくわからない大きな問題があると思うんです。町にごみ処理場から教育や医療やらなになにまで図に書いてみたら必要なものはわかることだが、これらをどこでどうするのかが大変だと思っています。これを 1 カ所につくるのか、複数の場所に作るのかもみなさんとの検討事項だと思っているんです。双葉町をどこかに作る場合はその場所を売ってもらうのか貸してもらうのか、さらにその場所がほしいといっても向こうがくれるのかどうかという問題があると思うんです。そのような問題があるから私としてはコンパクトな街を複数個作ったほうが、戻るまでどれくらいかかるかわかりませんが、私は骨になっているでしょうけども、みんなでそのような場所でいる考えを持ってもいいんじゃないかなと思っています。他の人とも話したが、小さい町を複数個作る場合は医療から学校までをつくるのは大変なことですよね。大野病院の問題がありましたが、病院をつくってもそこに医者がきてくれるかというのも大きな問題だと思うんです。けど小さな町を複数個作る場合はそれが福島市になるかいわきになるか郡山になるかわかりませんが、地域で元からしているゴミの問題、医療や教育に対して要請していけば、それほど経費をかけないでできるのではないかと考えている。今回の案では大きな町をつくるようにしか見えないんですが、その辺も検討についてもお諮り頂きたい。

【三井所 清典 委員長】

これは私ではなく事務局から返答いただきたい。

【事務局　駒田 義誌】

これはあくまで案ということで提示しているので、これから意見を吸い上げていきながら集約していきたいと思っております。

【三井所 清典 委員長】

復興委員の意見だけでまとめるわけではなく、全国にいる双葉町民の意見を聞いて決めていきたいと思います。その中には藤田委員と同じ意見もあると思いますので、少しでも多くの意見を吸

い上げていく方向だと思います。

【岩本 久人 委員】

これまで、10 年に 1 度見直されてきた町勢振興計画や町基本計画とは違い、どのような復興をしていくのかというところで一からの出直しとなる復興計画だと思うんですよ。私は行政に、エコエナジーラボさんが委託業者ということでお世話にはなるんですが、業者に丸投げではダメだぞと言っております。ましてや業者からの押し付けの復興計画では我々7000 人の復興会議ではなくなりますので、町民１人１人が参加できる委員会にしないといけないと思っております。実際の 7000 人の復興計画と大きく出ましたが、これがどんなものか今回説明していただきましたが、本当に双葉町の実態を御存知なのかなと、双葉町は他町村に比べて、本当に全国ばらばらに避難していて、県内外に半数半数おられる状況でどうやって意見を聴取するのかその辺が、町民の意見を調査不足なのかと思います。いずれにせよ、第一歩なので委託業者がしっかり現状を把握していただきたい。このままではまとまらないので、早いところ部会を作って、どのような部会を作るかという検討を始めた方が良いのではないかと思いますが。

【三井所 清典 委員長】

今部会の話がでましたが、とりあえず部会の話はおいて、最初の話の 7000 人の復興会議でどのように意見を集めるのか具体的にイメージが伝わるように説明した方がよいのではないか、とうことでしたが、Ｐ3 とＰ5 を詳しく説明していただけないでしょうか。

【田中 清一郎 委員】

はい。

【三井所 清典 委員長】

今事務局に説明してもらおうと思いましたが、関連した質問ですか。

【田中 清一郎 委員】

はい、どれくらいの時間でこの会議を予定しているのかわかりませんが、初回ですから総論で進めないと各論が出てきてしまっていますので、もうちょっと委員長さんが進め方を整理してくれないといけない。各論に入ったりスケジュールに戻ったりでは会議がどれくらいかかるのかわかりません。わたしも 3 時間かけていわきまで帰らないといけない。そこで今日は組織の作り方と今後のやり方ぐらいにしてもらった方がいいのではないかと思う。私の考えですが。もう一つ、双葉町は委員会を今日立ち上げますが、双葉郡は 8 町村ありますが、他の 7 町村はどのようにどこまで進んでいるのか事務局から発表してください。

【三井所 清典 委員長】

どうなっているかわかりますか。

【事務局　駒田 義誌】

次回の会議で発表します。

【中村 希雄 委員】

一点だけ確認したいのですが、先立つものの心配なんです。いろいろな案が出ていざやろうとする時、双葉町は 60 億円の借金を抱えているので町でやるのは無理。国なりが出してくれるのか。国交省からきた駒田さんがそういう説明してあるのか。それが無ければ、一生懸命やってもパーになるのでは、一筆もらっているのか。一生懸命やって実現しないのでは、バカバカしい。

【三井所 清典 委員長】
バカバカしいということでは無く、自分たちで町を作るんだと思って、意見や希望を聞いて自分たちが作れるものは何かというところまで話しをしようと思っている。国からお金がきてそれでやるんだという単純な話では無いことだけは初めから覚悟してもらいたいと思います。
【森山 真由美 委員】
この町はどういう人がどのくらい戻ってくる見通しで作っているのかなって、その間、町の機関をどこに作るのかなって。私は町が好きで地域の人が好きで、だから福島県に戻って働こうと思い、職が無いのを覚悟して福島県に戻りました。でも実際、私みたいに戻った人も、双葉町の機関が無いから、いずれ郡山の人と結婚したら郡山に住めばいい、いわき市の人と結婚したらいわき市に住めばいいと思っています。で双葉町の子どもはどうですか、加須市にいる子どもたちはどこを故郷だと思って、どこの町のために、どこの県のためにこれから生きていくのかというのがすごく疑問で、その見通しが全然もてなくて、理想としてはすごいなと思うんですが、けれどもやっぱり自分がこれから住んでいくということ、そしてこれからの双葉町を支える世代としての子どもたちをどう育てて行くかということが無い限りこの町を作っても住む人は本当にごく一部になると思います。
【三井所 清典 委員長】
今のような強い自分の思いを会議とかで出してもらって、その後、みんなで意見を聞いて話をどうまとめるかを考えていくのが流れと思って進行しましょう。
【森山 真由美 委員】
アンケート結果は町の若者が双葉町に対して何も期待していないよという結果なのかなって。17%の結果にがっかりして、それだけしか集まらなかったのはなぜかを聞きたいですし、またこれを公表しようと思ったのはなぜなのか。その原因を探っていかない限り 7000 人の意見を集めようと思っても絶対に集まらないと思うんです。
【三井所 清典 委員長】
それを集める努力をしようとこれから説明してもらうので、会議を前に進めさせていただきたいと思います。
【森山 真由美 委員】
私はそこを説明してもらいたいです。
【菅野 博紀 委員】
今の若者の意見を後で分けてではなくて、こういう意見を集約できなかったら何のための委員会ですか。こういう意見を集約で…
【三井所 清典 委員長】
集約しようとはしている…。
【菅野 博紀 委員】
分けて何とかではなくて、こういう意見を入れてくださいよ。
【三井所 清典 委員長】
ここの委員会でどうするかをみんなで議論して頂きたいと…。
【菅野 博紀 委員】

自分も同じ環境じゃないからわからないんだ。

【森山 真由美 委員】

そういう意見はいつ聞いてもらえるんですか。あとになると若者がいなくなってしまう。

【事務局　善養寺 幸子】

そういう意見を聞くために、8月から意見を聴取する会議を開いていきます。一意見を言ったからといって消えることはありません。こういう会議で問題になるのは、主張がしっかりできる人は自分の意見をどんどん言えるが、なかなか声も出さない人も多くいると思います。ですので、1人1人の意見は、多分考え方がそれぞれ違うと思うので、まずは「聞く」ということが大事だと思っていますので、今の自分はこう思う事を主張していただければ、それに対して私もそう思うという人もいれば、私は違うという人もいるかもれしれない。ここで集まっていただいている人数ですら、全町民のほんの一部でしかないと思います。ですから、これが全部の意見ではないということは、アンケート調査等にあったと思うんです。今これからやらなければならないことは、皆の意見が聴けてないという状態を前提にできるだけ多く、いろいろな意見があると思うので、それらを踏まえて、議論する場として、主要なところで委員だけではない全ての町民が自由に参加できる会議を開催していきます。要望があれば増やしていく予定でもあります。インターネットサイトでは、どうしても仕事が有って時間が無い、場所が遠くて行けないなどの人たちに情報を共有して、自分の意見を述べる場を作っていきます。8月中旬に開催するにあたってもインターネットページに会議でどんな意見が出たかを載せていきます。8月から見れるようになって、9月から意見を投稿できるようになります。アンケートに関しては、どのように進めるかは、この委員会で議論してもらって、会議に参加できない人やインターネットできない人の意見をどう吸い上げるかを議論して頂きたい。

【泉田 邦彦 委員】

今スタートラインは「聞く」と言われたが、それで大事なことは、収集法と周知法が徹底していないと無理だと思います。収集案にしても、例えば、インターネットの会議で意見を集約するにしても、インターネットを使える環境にある家がどれだけあるかはわかっていませんよね。ちなみにうちの家に使える環境であっても父親、母親、婆ちゃん、曾婆ちゃんは使えません。結局子どもが帰ってきた時にネットで調べる程度で、実際ネットが使える環境であっても使い方がわからない町民は双葉町に多いと思います。その中で、インターネットで会議をするのは理想論だと思います。周知方法にしても自分はネットを見るからわかるがネットを見ないとわからない。その周知をするにしても、一部の人が知っていても意味が無いわけで、どうやってそれを全体に広めていくかが問題だと思いますし、メディアを使う方法もあると思います。子どもたちは、小学校・中学校単位で集めた方がアンケートの収集率、回収率が上がると思うので、有効に活用していくのが 1 つだと思います。また若者の話が聞きたいのであれば、例えば、双葉中、双葉北小、双葉南小を卒業して夏休みだったら、大学生までなら出席できると思いますよ。さっきから話を聞いている意見をまとめると言っておきながら話を聞いてもらえず、全然まとまっていないと思います。そこで、意見をぶつけ合い、もっとガチンコで話し合うべきじゃないんですか。最初から意見をまとめようとするのは無理がある。若者にもいろんな立場の人がいて、いろんな意見があると思う中で、福島に生活できるかどうかもわからないです。仮の町の構想でも、誰が戻って

くるのかを考えてやらないと理想論になってしまう。高齢者の中には、ご先祖様の土地や墓を守れないのが悔しいという…。

【三井所 清典 委員長】

どういう風に意見をまとめるか・・・

【菅野 博紀 委員】

若い人の意見を最後まで聞かないのは、意見を言えなくしているのと同じなので意見を全部聞いてください。

【三井所 清典 委員長】

わかっています。終わりの時間もあるので要領よく発言してください。

【泉田 邦彦 委員】

委員長は理想論を僕らに押し付けているだけだと思う。徹底して欲しいのが意見の収集のやり方と周知をしっかりして欲しい。

【三井所 清典 委員長】

そうですね。

【事務局　善養寺 幸子】

双葉町の現状を一番よくわかっているのが双葉町の町民なので、小学校・中学校単位で回収した方がいいなどの意見を教えてもらいながら、皆の意見を集約できるようにしたいと思います。大変いい意見だと思うので、いろんな形で意見をください。

【菅野 博紀 委員】

事務局のエコエナジーさんに情報がちゃんといってないようですね。小学生から中学生までが7月27日～29日まで再会の集いが猪苗代であります。要綱やアンケートを作ってきて、その場でどういう風に聞けばいいかを第1回の委員会で話し合うべきだと思います。再会の集いがあるのにその場を使えばいいんじゃないんですか。

【事務局　善養寺 幸子】

教えていただければ対応します。

【竹原 天 委員】

こういう意見の中で、双葉町に帰れるか帰れないかが頭にある。そのため2本立てで考えるべきじゃないか。今は双葉町に帰れることで話し合いをしているが、帰れない場合はどうするのか。帰れない場合にまた一から話し合う必要があるので、帰れるか帰れないかを決めてから仮の町を話し合うべきだと思うんですが。

【井上 六郎 委員】

新聞では、5年先10年先になるのか今では30年先に帰れる報道がある。その中で、時限的まちづくりなのか長期的まちづくりなのかが非常に疑問に思うんです。今避難している方は故郷に帰りたがっているが、どういう風に捉えたらいいのかわからないと感じている。

【齊藤 宗一 委員】

アンケートでもわからないという意見も多いが判断材料が無いからだと思うんです。

【宇杉 和夫 委員】

西安交通大学で客員教授をやっております。中国の学生から聞かられるのは、双葉町町民約7000

人の方々が人類史に無い新しいコミュニティをつくれるのか、バラバラになっても新しい町がつくれるのかだと思います。仮の町をどういう形でつくるのかの方法について次の会議で期待しています。

【木幡 敏郎 委員】

各地から来られている人もいるので、細かいところは部会で話を進めた方がよいのではないかと思うんですが。

【三井所 清典 委員長】

委員会で別に部会を持つことも検討していきたいと思います。

【事務局　駒田 義誌】

先ほどありました、他町の件ですが 23 年度に復興ビジョンの検討委員会で策定などをしています。他町では先行して委員会を設置しています。双葉町は今委員会が立ち上がったので今から町民の意見をしっかり聞いて計画に反映していきたいと思っております。

【田中 清一郎 委員】

双葉町は今日が復興委員会のスタートでは、他の町では無事スタートしているわけで、他の町がどのぐらいの早さで立ち上げて消化しているのか。他の町と足並み揃えてスタートするのが行政だが、なぜ、双葉町はこんな遅くなったのか。他の町の状況を説明してはどうか。

【事務局　駒田 義誌】

浪江町は平成 23 年 10 月 19 日に立ち上げて今年の 4 月 19 日策定しています。大熊町は 11 月 16 日に立ちあげて、今年の 4 月に策定されています。だいたい、半年ぐらいで案をまとめていると承知しています。

【田中 清一郎 委員】

半年ぐらい遅れているが、事務局に認識があるのかっていうのを聞きたいんです。

【事務局　駒田 義誌】

遅れているのは事実ですが、町民の意見を丁寧に聞いて取り組んでいきたいと思っております。

【木幡 敏郎 委員】

早かった他の町は除染も真剣に議論していると聞いている。しかし、後半になるといろいろな理由より町民の意見が入らなく計画を軌道修正したと聞いている。話を進めていくと、意見が割れると思うがそこらへんを見極めながらやっていただきたい。

【泉田 邦彦 委員】

委員会は枠組みを決めるのか僕らの意見を聞いて考えていくのか、どういう立ち位置の会なのですか。僕のイメージは、どういう町にしたいのかの意見を言って、みんなで共有する場だと思って来たんですが、今回は収集方法などを決める枠組みを決めるので、僕らはいらなかったのではないかと思う。枠組みだけなら大学などの専門家や学生を呼んだ方が良いのではないかと思いますよ。仮の町構想にしてもゼロから造るのには違和感がある。今まで作り上げてきた歴史、文化などをもとにコミュニティを作り上げるものではないかと思うんですよ。

【三井所 清典 委員長】

町民の意見をどうやって聞くと漏れなく意見を聞けるかが今日の会であったと思うんです。委員のみなさんの役割は、それぞれの地域で会議が開かれた時に町民の意見がうまくでてくるような

リーダーになることも重要な役割だと思うんです。そして、意見が集まってきた時にどうやって整理するかも委員には考えてもらえたらと思います。

【西内 芳徳 委員】

今後スムーズに進めるためにも今日参加している委員がどのような考えを持っているか事務局で集約した方がいいと思います。宿題などに上げて、双葉町をどう思っているかなど、4・5 点の質問に絞って無記名ではなく名前がわかる形でしたほうが良いと思います。せめてこの中だけでもみなさんがどう考えているのか知る必要があると思います。

【三井所 清典 委員長】

貴重なご意見ありがとうございます。事務局で対応を考えてください。

【藤田 博司 委員】

体の悪い方や遠くから来ている方もいますから、会議の終了時間も明記してその中で終わるようしてほしい。

【三井所 清典 委員長】

本日の終了時間は 3 時半です。

【藤田 博司 委員】

もう 1 つは、岩本委員からもありましたが、次回は部会はこういった部会をつくってこのように進めるというたたき台を事務局で作っていただいて討論を始めた方が早いのではないかと思いますのでよろしくお願いします。

【三井所 清典 委員長】

貴重なご意見ありがとうございます。

（4）その他

7．その他

【森山 真由美 委員】

今日の話し合いの中で私はどこまで決めるのか見通しが立たない中で、自分の意見を言えば止められてしまったので、今日はここまで決めるとか、今日はこのような内容で進めるとかを今日は復興まちづくり意見交換ということで大きくなりすぎたのでここを決めるとか示してほしいと思います。

【三井所 清典 委員長】

わかりました。今後は事前打ち合わせをして趣旨をはじめに伝えて進めていきたいと思います。

【菅野 博紀 委員】

会議のやり方は森山さんの意見はすごく大事で、資料は今日もらいましたが、これ見て説明受けてはいそうですかってなりますか。今までそれでとおってきたかもしれませんが、今までなかった大事なことなんです。事務局は本当に反省しなくちゃならない。この大事なことをここにいて決める責任っていうのは、さっき森山さんがおっしゃったが、若い人たちがここで発言するというのは大変でここに偉い人たちがいて、そのような発言を止めてしまうっていうのは本当に私は納得できない。それと自分たちでやることやりなさいよ。作るんだったら出してきなさいよ。見

る時間がほしかったよね。ここまでとか、意見の集約とかも決めてやらないと、本当に来たくなくなってしまうよね、本当に大事な意見を大事に育てないとなんのために、副町長なんのために予算をとったかわかんないですよ。それを事務局がきちっとしてください。

【三井所 清典 委員長】

貴重なご意見ありがとうございました。資料の事前配布これはかなり難しいことだとは思いますが、できるだけ対応してぎりぎりになる場合もあると思いますが、よろしくお願いいたします。

【笠原 真一 委員】

アンケートするときの設問に関してなんですが、できるだけ簡単にしていただければと思います。

【三井所 清典 委員長】

アンケートは詳しすぎると書けなくなりますからね。自由に書ける欄を設けて、それ以外の設問はできるだけ簡単にする必要はありますね。

８．閉　会

【三井所 清典 委員長】

貴重なご意見ありがとうございます。私は被災後の苦しい時間を過ごされた方々の気持ちを十分に理解しているとは思いません。失礼なこともあったと思いますが、今後もよろしくお願いいたします。今日は、今後の限りなく 7000 人に近づく努力をして町民の意向、意見を伺う方法について説明を受け、理解して頂いたと思います。ありがとうございました。では事務局お願いします。

【事務局　駒田 義誌】

みなさん、ありがとうございました。次回についてはまた事務局から連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。